

『魔女と眷属』

初稿おまけ台本

キャスト

←うちりおねえ様！

魔女 Coo

ルウ（眷属） 和泉あやか

【収録メモ】

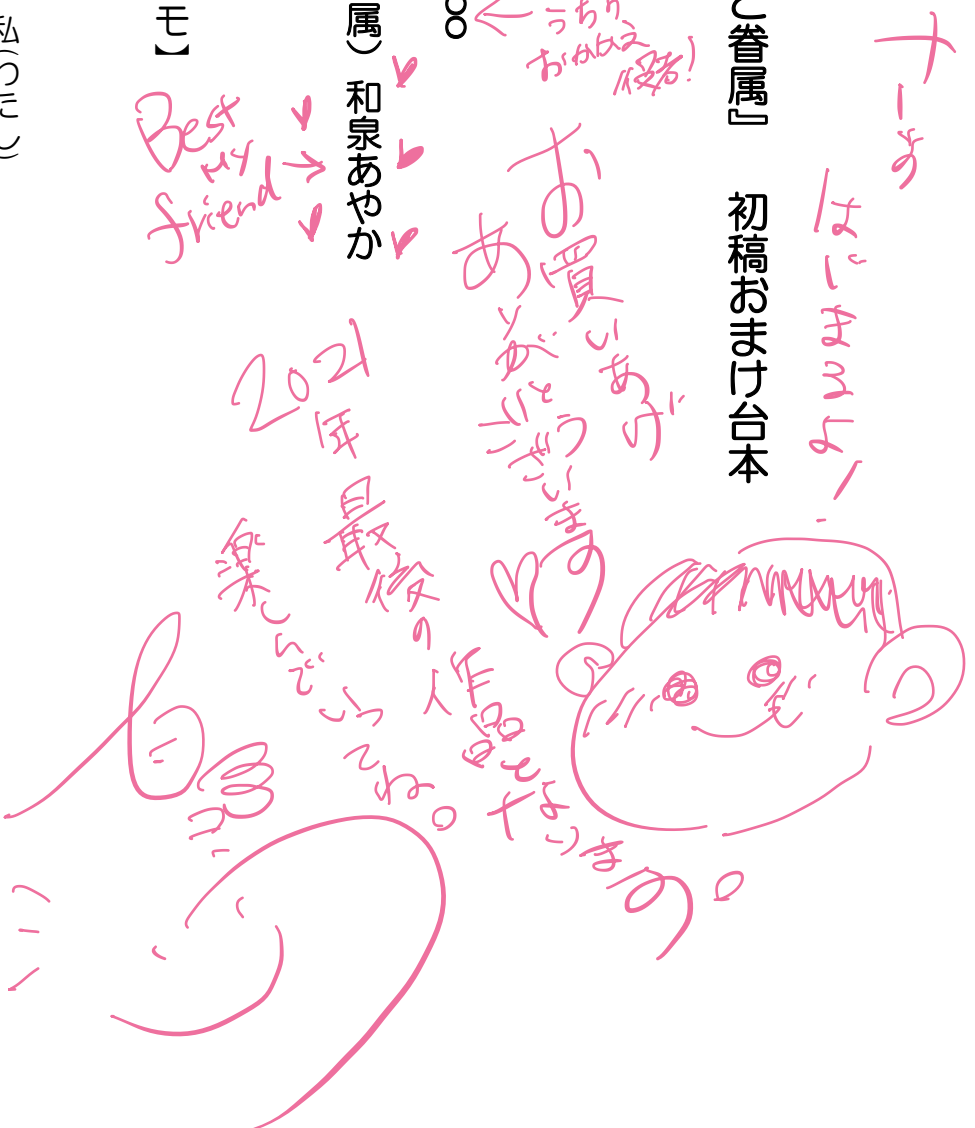
●ルウ

・一人称：私(わたし)
イメージ 純白・純潔・清楚・カスミソウのような女の子
年齢は一六歳くらいですが、雰囲気は幼い

・島の生贄として育てられた。(そういう家系に生まれている)
まともに人扱いをされたことがない。が。唯一母親には愛されて育った。
生きるすべとして、野草や簡単な医療などの知識がある。

・処女。恋とか恋愛は知らない。性的なこともまったく知らずに育った。
(けど、野草や生き物に関する知識はあるので、性交や子供が出来る方法などの知識はあります)

・魔女の生贄として連れてこられる。契約を交わして、野兎の守護霊の加護を受けた魔物（魔女の眷属）になる。



トラック1

■魔女の家

(※ SEやMEで魔女の谷の様子、入室の様子を表現)

最果ての谷にある魔女の棲む家。

荒びる風の音、カラスたちが飛び回り鳴く声

重厚な扉が開き、二人の靴音が入ってくる。

一人はロングブーツハイヒール、

一人は裸足でそのあとを恐る恐る着いてくる。

魔女 「ここが私の家だ」

ルウ 「(AD//恐る恐る室内を見回す音)」

//SE 扉が閉まり、遠くから一匹の鴉が飛んで来て
ルウの目の前をかすめる

ルウ 「(鴉に驚く音) ……っ!!」

//SE 鴉、魔女の腕にひかれる

魔女 「留守中、変わったことはなかったかい?
……んぐ、う苦勞だったね。行け」

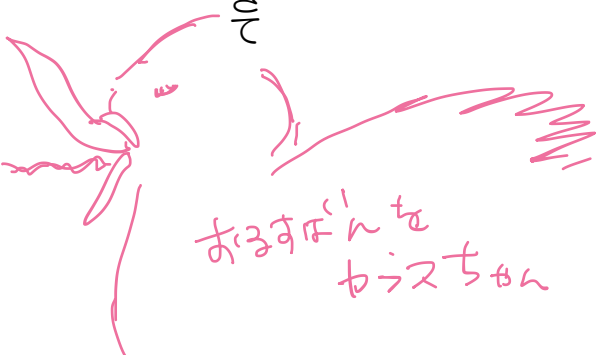
//SE 鴉飛び去る

魔女 「(ちらちらルウを見る音) ……」

ルウ 「……………」

魔女 「ソリの椅子に座れ」

ルウ 「(AD//おごり言ったことがまたおなら。急いで言われたとおどろく音)」



65
66 魔女 「震えているね、私が怖い？」

67
68 ルウ 「……」

69
70 魔女 「あの出来損ないの長老に何と言われてここへ来た？」

71
72 ルウ 「……い……生贄。恐ろしい魔法でこの世を牛耳る大魔女から
73 この島を救うために、人柱として捧げられると」
74

75 魔女 「……へボ長老め……」

76
77 ルウ 「魔女様、私はどうなっても構いません。
78 母が住む島を……私たちの島をお守りください……」
79

80 魔女 「……だから、その島を守るために、今、ひと仕事してきたんだろっが」

81
82 ルウ 「……え？」

83
84 魔女 「お前の島の民は私との長年の契約を破ったのだよ。

85 島の地脈には古来よりかなりタチの悪い竜が住む。

86 私の魔法はそいつを封印する代わりに島に呪いをかけるんだ。

87
88 しかし、その契約を忘れた馬鹿な子孫どもが金脈を掘ろうとしたため
89 約束の地を踏み荒らした。

90
91 長老は封印が破かれ再び島に役債が降りかかろうとしているのを察し
92 て、慌ててお前という生贄を捧げたんだ」

93 ルウ 「そう、だったのですか……」

94 魔女 「島のヤツらに私はたいそう恐ろしい魔女だと言われて育ったのだろ
95 うな。

96 だがな、あの規模の魔法の契約を破っておいて、

97 お前ひとりの命でどうにかなるものではないのだぞ、本来は。

98
99 それを、お前を賣うことであの竜のババアを再度鎮めてやったのだから
100 感謝されたって足りないくらいなのだからな」

……ヤツ、わかっているからな。
お前の命を売ったのはお前だ。
お前が売ったんだ。

101 ルウ 「命でも足りない……魔女様、私はどうすればよろしいでしょうか」
 102
 103 魔女 「ふむ……。では、時を頂うつか」
 104
 105 ルウ 「時……。時間、ですか……？」
 106
 107 魔女 「殺しはしない。活かし続ける。今日からお前は輪廻転生の輪をはずれ、
 108 我が眷属となり、永遠に私に仕える魔物となる」
 109
 110 ルウ 「……」
 111
 112 魔女 「怖いか？」
 113
 114 ルウ 「母様には……もう、二度と巡り逢えないのですね……」
 115
 116 魔女 「そつなるな」
 117
 118 ルウ 「……かしこまりました。お仕えます」
 119
 120 魔女 「ほう、泣き喚かぬか。潔いな」
 121
 122 ルウ 「この命は島のもと育てられました。これは私の務めです」
 123
 124 魔女 「そうか。では、お前の気が変わらぬうちに契約の儀に移ろう。
 125 服を脱ぎ、お前はそこに立つだけでいい」
 126
 127 ルウ 「(怯え息)！ ……………なにを」
 128
 129 魔女 「されるか、か？ 身体と魂の物質を無理やり変形させるため
 130 大量の魔力を注ぎ込む。私は魔物になったことがないから知らぬが……
 131 変化の時は死を迎える瞬間よりも気持ちがいいらしいぞ……？」
 132 ふふ、いいから脱げ」
 133
 134 ルウ 「(AD//おびえながら服を脱ぐ息
 135 着ているものはボロのロンリー一枚程度)」
 136

へボ長老 ↓



137 魔女 「……はあ。村では粗末な暮らしのようだったから……細いな。

138 人柱は自分の島を守る巫女のようなものなのに、何を考えているんだ、

139 あへのボ長老の家は。……へボは何代続くのがへボだな。

140 眷属になれば食事は要らぬが、しばらくはしっかり食べてまずは太れ」

141

142 ルウ 「(怯え息)」

143 「いまだに……ちやうど「うさぎ」を「うさぎ」で、

144 「やすがに~~変化~~の時は怖いよな。私は優しいから……辛さを感じぬよう、

145 「ーリエの草で身体をほぐしてやる」

146

147 ルウ 「……っ！ その草は……」

148

149 魔女 「ほう、知っているということは使ったことがあるな。

150 そう、人間の性感帯に反応して身体に絡みつぎ、生気を吸い尽くすまで

151 刺激を続ける魔草だ。発芽したばかりなら自慰に使えるが……そうか、

152 人は見かけによらぬものだな」

153

154 ルウ 「ち、違います……！ でも、この草は……ダメです、魔女様……」

155

156 魔女 「遠慮するな、使っておけ。

157 そんな小さな身体に巨大な魔力をぶち込むのはキツいぞ」

158

159 ルウ 「大丈夫ですから……！ やめてください……っ！」

160

161 //SE 魔法の種をばらまき音

162 間もなく種がもそもそ動き出し、シタが伸びてくる

163 シタが身体を這っていき、

164 「(※ぬめぬめの触手プレイのようなものだと思って頂いて結構です)

165

166 ルウ 「(シタが魔法に延びてくる) ……あ、……や……やめ……っ。」

167 「魔法からシタが絡ついてくる) ……っ……っ……冷た……っ……っ……っ……っ……あっ」

168

169

170 AD//ルウ・シタが身体を這ってのを感じる音

171

172

209
210 魔女 「よし、開いたか。では、儀式に移ろうか……（気合息）ふんっ」
211
212 //SE 魔女の魔力が全身を包む。炎が燃え上がるような音
213 シタが一瞬で焼き消え、ルウその場に崩れ落ちる
214
215 ルウ 「……っ！ はあ、はあ、魔女様の魔力で「ゴリーエが一瞬で焼き消えた
216 ……」」
217 *いそいで魔法つかえろわい。*
218 //SE 魔女、ルウを抱き寄せる *おどおどとナラブだよ。*
219
220 魔女 「我が魔力を受け取れ……（キス）ん……んじゅっ、んじゅねん、んっ、
221 ンはあ……あむ…ん…っ……ちゅるる、んじゅる、はじゅるるる……ん
222 ちゅ、ちゅほっ、んちゅほっ、んちゅねねん、……んちゅっ、ちゅっ、
223 ……っはあ、ちゅねねん……」
224
225 ルウ 「んっっー（//AD かなさのディープキス、口の中かき回される息）」
226
227 魔女 「甘っ……小ぢな口だな……なかなか美味いぞ……んちゅるる、んちゅ」
228
229 ルウ 「……んっっ、ま、じゅわま……んっっ、ちゅるっ、熱……っ、です……
230 っんっ……」
231
232 //SE ルウの股間を魔女がふれるクチュ音
233
234 ルウ 「んあっっ……ー」
235
236 魔女 「むむ……」
237
238 //SE 優っっキマン 水音
239
240 ルウ 「あうっ……んっ、んん……っ、んっ……う……っん……んん、魔女様…
241 そんな、に、かき混ぜなうでっだわっ……んっ、うっ……っ……はあ……あ
242 ……あ……っんっ……あ……あっ！ ん………ああ……あっ！」
243
244 魔女 「よし、よく濡れているな。では……魔力を送る……んっ………」

//SE 魔法が発動する効果音（ドン！とかボン！とか？）
ニチニチと巨大な魔力がルウの秘部を押し広げていく

ルウ 「んあうっ!! ……っあー! ……がはっ! ……がっ……あっ……
……あ……あ……あ……あ……っ! ……ああっ!」

魔女 「……っぐ、力を……抜け……」

ルウ 「（泣き声）い、たい……っは、……っが、…いつ…痛い……っ、……ん
ぎう……ぐあ……! ぬ、いて……下さ……んぐっ……ま、じょ……さま
っ……あっ」

魔女 「馬鹿か、今やめたら魔物になるところか魂そのものが消滅する」

ルウ 「（泣き声）んぐぐ……うああ……痛い、痛いよお……んうう……や、め
て……やめ、……もう、入らない……んがっ……が……あ……うあ……
っぐ……っ! 壊れちゃ、う……うぐっ! ……んああ……壊、れ、ちゃ
うよおお……っ!」

魔女 「もう、奥に届くぞ……もうちょっただ……」

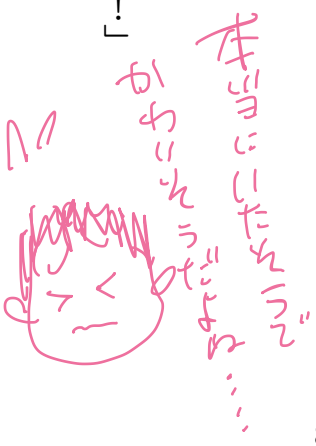
ルウ 「んっ、んっ、んん……っ! ……んぎゃああっ!」

魔女 「とどいた。……っはあ……はあ……大丈夫か?」

ルウ 「……っはあ、はあ、はあ、はあ、……お、なか……あっ、い……んん
っ……お腹…焼け、てる……お、くまで……いっぱい……んっ…んぐ……
苦っ!……」

魔女 「身体が慣れるまで待ってやる。口を開けて……舌を出せ……
（キス） んちゅっ、ちゅっ、……っはあ、ちゅるるる……」

ルウ 「んあ……（べろちゅー）あむ……ん、んう、んんっ、んふう……ん、ん、
……んん……んう……んふ……はあ、はあ、ンチュる……んんっ……んふ……」



281
282 魔女 「んじゅる、舌も小さいな……んちゅ、ちゅっ、そっだちゃんと息を
283 吐け、ゆっつり息をつろ」
284

285 ルウ 「……魔女様……お優しいんですね……」
286

287 魔女 「馬鹿か、本当に辛いのはじじからだ……」
288

289 ルウ 「……え?」
290

291 魔女 「魔力の転送をする。力を抜いていろよ」
292

293 //SE ユーストン音
294

295 ルウ 「んああっ! んんっ! あ…あ…ぐっ! っ…あ……ん…っ…あ
296 あ! あっ! あああ! …っう! うう! っ…! んん! あ
297 …! ああ! あっ! ん…! …っふ! …う! っ…はあ…はあ
298 …はあ…はあ! あああ! っ…ああ! んぐ! あっ…!」
299

300 魔女 「(//AD 魔力を放出する息)」
301

302 ルウ 「んん! あ…! あっ! っ…! あ…! …あ! …っん!
303 っ! っ……! ああ! あ…! あ…! ああ! あっ! あ
304 っ! あう…! う…! う…! ん…! …んあ! …あ!
305 い、たい…っ! ……んん! …ふうう! …っ! 痛、いっ!
306 …はああああっ! …ああ……あっ…!」
307

308 魔女 「…お前の…大好きな乳首を舐めてやるから、気をそらせろ……んちゅ
309 っ、ちゅるっ、んちゅっっ、じゅるっ、んちゅる、んちゅ、ちゅぱ
310 っ、じゅるる……ちゅぱっ、ちゅぱっ、ちゅぱっ、ちゅぱ
311 っ、んちゅる、ッロッロッロ…んちゅる、ちゅる、んちゅ
312 ぱっ……」
313
314
315
316

ルウ 「(乳首責められて)ひっ…! んん…ああ…ああ…っ…あ…あ…っ
んん…んっ! っ…ああ…ああ…あっ! あ…ああっううっ…!

353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388

ルウ 「ああああー！ らめらめらめ……………ん……………もおお…おうっ…っ！ だ
ああ…つめ…え…！ …っ、んはっ、あっ！ なにか……………きちゃっ、何
か……………ぎ、ちゃっ……………んはあ、はあはあはあはあ、あああ…っ！ んん！
…んっ！ …あ！ あ！ …あ！ …あ！ …あっ！ …ん！ ……っ！
っ…！（絶頂）ああああああああ…！ …っああ…っ！ あ…あ」

魔女 「……………っゝ…！」

//SE 眩し〜発光し、光の中で魔物（眷属）へとトランスフォームする
ルウ

ルウ 「（//AD 身体が変形して…息
※そんなに苦い感じがなくて大丈夫です）」

魔女 「（//AD その様子を見守る息）」

//SE 光が収まる

ルウ 「（//AD 意識を失い崩れ落ちる息）」

//SE むわっむわの場に崩れ落ちるルウ

（時間経過）

//SE 壁かけ時計の音、遠くでツクロロの鳴く声
//SE ゼンシュと飛び起る足音

ルウ 「（飛び起る息）……………じじ、むじむ… …あっ……………痛…っ！
……………なにっ…なにっ身体が痛む……………の……………？ 私、どっ…っ、て……
（現状を思い出して）……………ああ、そっだ。私………」

//SE 扉が開く音 魔女入室している足音など

389 魔女 「！ 目が覚めたか」
 390
 391 ルウ 「魔女様……！ 私、気を失って……？」
 392
 393 魔女 「ああ、三日眠っていた。
 394 そろそろ魔力が身体になじむ頃かと思って様子を見にきたら……。
 395 気分はどうだ」
 396
 397 ルウ 「だ……大丈夫です……。あの、私……こんなにいいベッドに寝かして
 398 頂いて……。すみません、すぐに帰ります……！」
 399
 400 魔女 「その必要はない。この部屋はお前の部屋だ。
 401 そして、ここにあるものは全部お前のものだ、好きに使え」
 402
 403 ルウ 「えっ！ でも！ 私は魔女様のしもべにされた者、こんなにふかふか
 404 であったかくていい匂いのする寝床で眠ることなんて許されるはずあ
 405 りません！」
 406
 407 魔女 「……それは、誰の命令だ？」
 408
 409 ルウ 「……え？」
 410
 411 魔女 「お前の主人は誰だ？」
 412
 413 ルウ 「……魔女様です」
 414
 415 魔女 「その主人が好きにしろと言っているのに、
 416 なぜ別の者の命令を聴くことをするのだ」
 417
 418 ルウ 「……あ」
 419
 420 魔女 「？ なんだ、まだ寝ぼけているのか」
 421
 422 ルウ 「……いえ、ありがとうございます……！ 『ご主人……様』
 423 「ふっ、おかしなヤツだな」
 424 魔女

魔女は「……あー、いそ
 ぎで帰っていただきます……」

魔女は「……あー、いそ
 ぎで帰っていただきます……」



425
426 ルウ 「……あ」
427
428 魔女 「今度はなんだ」
429
430 ルウ 「ご主人様……笑った」
431
432 魔女 「私だっておかしいことがあれば笑う。……変か？」
433
434 ルウ 「うふふ、いいえ」
435
436 魔女 「お前もやっと笑ったな。うん、機嫌もよさそつだ」
437
438 ルウ 「お分りになるのですか」
439
440 魔女 「お前の守護霊は野兔だったよつだな。頭を触ってみろ。
441 兎の耳が付いている。そいつが動くのでお前の心のうちが分りやすい」
442
443 ルウ 「えっ!? (頭を触ってみる息AD) ……ホントだ
444 (お尻を触る息AD) やだ、尻尾も……!」
445
446 魔女 「なかなか似合つぞ」
447
448 ルウ 「私……本当に魔物になったのですね……」
449
450 魔女 「ああ、これから暮らしていくぞ。共にな。お前、名はこ。」
451
452 ルウ 「あ……そついえは……」
453
454 魔女 「知ってはいるが、ご主人様に自己紹介がまだだぞ。
455 お前の口から聞かせろ」
456
457 ルウ 「……はいー。ルウと申しますー。」
458
459
460 //SE フクロの鳴る足音はなぬ

終わる

トラック2

■魔女の家

//SE・ME

朝の森の雰囲気

朝食準備中のルウ ここに来てから一週間程度

竈からスープ鍋のコトコト煮える音 野菜を刻む音

卵ベークンを焼くフライパンの音

朝の風景の音に交じり、ルウの鼻歌が聴こえてくる

ルウ 「ふ〜鼻歌」

//SE ロングブーツの足音が入室してくる

ルウ 「おはようございます、『主人様〜』」

魔女 「ああ、おはよう」

//SE 鴉、窓から飛び込んできてひと鳴き

魔女 「……………ん、『苦勞』」

ルウ 「鴉さん、毎晩偵察『苦勞様』です。

朝『おん』、皆さんの分も用意しておきましたから、あとで食べてね」

//SE 鴉ひゅ鳴きつつ飛去りしつゝ

魔女 「餌は勝手に見つけて食べるから、あいつらの分は不要だよ」

ルウ 「はい。でもお仕事の後は疲れてるでしゅから……朝だけでも」

魔女 「好むしゅね」

//SE 配膳中音

ルウは「はい」でいいです。
魔女は「うん」でいいです。
ルウは料理が待てないでいいです。
魔女は「はい」でいいです。
ルウは「はい」でいいです。
魔女は「はい」でいいです。

496 ルウ 「ご主人様もどうぞ。今日はかぼちゃのスープです♡」

497 魔女 「うむ、ありがとう。」

499 ……あ、それと後でいいからヘンルーナ草とニガヨモギを
500 あそこの籠いっぱい採ってきておいてくれるか」

501 ルウ 「はい、すでにご用意しております。」

503 どちらも天日干しにしてみましたですが構いませんよね？
504 あと、調剤棚にある薬草で量が少なくなってきたものも摘んで参
505 りましたので、補充しておきます」

506 魔女 「お前は薬草に明るいのだったな」

508 ルウ 「生きるため母様に仕込まれました。私も野の花が大好きで……」

509 魔女 「ゴリーエなんてもものも知っていたくらいだしな……」

510 ルウ 「だっ！ ……だから、アレは違っんです……！」

511 魔女 「そうかそうか。この小屋から西にしばらく行くと滝のある泉がある。
512 その周辺花畑になっていてな、きっと気に入るぞ。行ってくるといい」

513 ルウ 「でも、私はご主人様のおそばにおりませんと……」

514 魔女 「別にしもべになったからといって用のない時までべったりそばにい
515 る必要はない」

516 ルウ 「はい……。でも、これも契約の力なのでしょうが、ご主人様が視界に
517 居つくだらないと私が落ち着かないのです……」

518 魔女 「……そう、か。では、食事が終わったら今日はそこへ出かけるか」

519 ルウ 「もちろんですよー」

520 魔女 「……ぶっ」

←これは
YouTubeのシナリオに
出てくる設定
だね。

532
533 ルウ 「はっ！ 申し訳ありませんっ！
534 私ったら……ご主人様、お忙しいのにわがママを……」
535

536 魔女 「私に忙しい用事などあるものか。構わないよ。
537 人間のころのお前は表情が読みにくく、何を考えているかさっぱり
538 わからなかったが……今は耳が全部教えてくれるから助かるな」
539

540 ルウ 「人間のころの私をなぜ……」
541

542 魔女 「千里眼があるからな。今期の生贄はどんな女だろうと
543 新しく生まれてくるたびに見ていた」
544

545 ルウ 「私の母も……？」
546

547 魔女 「ああ、お前の母も、その母も……みんな美しい人だったな」
548

549 ルウ 「……………そう、ですか」
550

551 魔女 「ふふ、嬉しいか」
552

553 ルウ 「……………分りますか」
554

555 魔女 「耳の先が跳ねている」
556

557 ルウ 「(照れる) ……♡ まっっ、耳の根の上がっつてんだわっ。
558 スープが冷めてしまってます。
559 あっ、いけない！ 卵も焦げちゃう……!!」
560

561 //SE 急ぎ足で歩く音が響く(ジョールの低い靴の音で)
562

563 //SE 壁面の音が f.o.
564

565 (時間経過)
566
567

怒りを求めている家からマニ
だったんだから(涙)

■魔女の家

その日の夜

暖炉の側で魔女は大きな揺り椅子で魔法書を読み、ルウはそのそばで編み物をし、各々くつろいでいる
が、ルウは汗ばみ息が上がっている
(……という風景ですが、音で全部分からなっています)

//SE 外でフクロウの鳴く声 暖炉の火のはぜる音、壁掛け時計が鳴る
など……穏やかな冬の夜の様子を

//AD ルウ、小ねむ坊っちゃん息

魔女 「すまないが葡萄酒をもう一杯くれないか」

ルウ 「……ッ、……はあ、はあ……は、う」

魔女 「……？ どうした」

ルウ 「(息があがっている)すみません……なんだか、さっきから暑くて……」

魔女 「そうか？ 今夜は冷えるくらいだが……」

ルウ 「なんだか、おかしいんです、私……お腹が熱くて、シンシンして……
なんにも集中できなくて……」

//AD ルウ、発情期の息

「フウッ…フウッ…フウッ…フウッ…フウッ…フウッ…」

魔女 「なんだ？ 注入した魔力が足りなくなるには早すぎるっ……。
……ああ、お前……発情期か」

ルウ 「……えっ？」

魔女 「お前は私の眷属になる際、守護霊である野兎の加護を受けている。
それは生物としての習性も色濃く反映される。

604 兎は年中発情すると言われるくらい繁殖能力が高い生き物だからな」

605
606 ルウ 「私……発情してたんだ……」

607
608 魔女 「気が済むまで性器を触ってみろ。落ち着くかもしれない」

609
610 ルウ 「はい……（//AD 衣服をたくし上げ、足を広げる息）
611 すぐに済ませますから……」主人様、見ないでください……」

612
613 魔女 「私は魔術書を読むのに忙しいから、大丈夫だよ。
614 葡萄酒も自分でとっていい」

615
616 //SE ルウ自分で自分のものを慰める水音
617 //SE 葡萄酒を注ぎ、椅子に戻る魔女 ページをめくる音など

618
619 ルウ 「（秘部に触れる）……っ！（秘部を不器用に擦る）っ、っ……ふ……うっ、
620 っ……ああ……ん……っ……、っ……ふうっ！ っ……ああ……ああ……ん……っ……
621 っ……ふうっふうっ、っ……ああ……ああ……あ……あ……あ……
622 （軽くイク）ん………っ……っ……ふう……うっ！
623 ……はあはあはあ……」

624
625 魔女 「……イッたか？」

626
627 ルウ 「（羞恥）……ッ。……はあ、はあ
628 （秘部に触れる //SE ルウ自分で自分のものを慰める水音）
629 ……んっ！ （秘部を不器用に擦る）ん……っ……すみませ……ん、まだ
630 ……！あっ、っ……ふうっ、っ……ん……っ……、っふうっふうっ、っ……
631 あああ……ああっん……っ！ っ………！ っ……ふう！ っ……ああ
632 んっ、っ……ふうっ、っ……あ……あ……っ！ っ………主人様あ……」

633
634 魔女 「……なんだ」

635
636 ルウ 「『本……読んでいてくだわって構わないので、片方の手だけ……
637 握ってくだわませんか……？』

638
639 魔女 「……むっ！」

↑ 自らの秘部を慰める音
考えに任せていい
秘部を慰める音など

640
641 ルウ 「ご主人様を感じていた方が……早く……その……達することが、
642 出来る……気がして……」
643

644 魔女 「!!……………す、好きにっ」
645

646 ルウ 「ありがとうごさいま……あっ！

647 (自分で指入れる //SE ルウ自分で自分のものを慰める水音)
648 あ……あ……！ ああ……あ……っ！ ……！ んん……っ！ うっ……っん
649 ……んっ！ あ、あ、あ……あ……あ……ふっ……！ あ……あ……あ……あ……
650 んん！ あ……あ……！ あ……あ……っ……ん……う……う……っ……！ んん……
651 あっ……！ ふ……あ……あ……っ……あ……ん……っ……ご、主人……様……あ……あ……
652 あ……あ……っ……ん……！ ……う……う……っ……！ 「ご主人様……あ……ん……
653 あ……あ……あ……っ……ふ……う……う……！ あ……あ……あ……！ イ……ちゃ……あ……イ……
654 ちゃ……う……イ……っ……ちゃ……う……
655 (絶頂) あ……ん……ん……ん……ん……っ!!……………
656 はあー……はあー……はあー……」
657

658 魔女 「……いっへり。はあ……はあ……、大丈夫、か？」
659

660 ルウ 「(半泣き)ふええ、どうしよう……まだ……まだ全然足りないよ……。
661 はっ！ 「ご主人様……ごめんなさい、跡が付くほど手首を握ってしまっ
662 て……」
663

664 魔女 「そんなものは構わない。お前は……」
665

666 ルウ 「はい、すみません、もう済ませますので……
667 (自分で指入れる //SE ルウ自分で自分のものを慰める水音)
668 んっ……んあ……はあ……はあ……ん……ん……」
669

670 魔女 「……っ！ も……、もういい！ 尻をこちらへ向けろ」
671

672 ルウ 「……はあはあ。……えっ」
673

674 魔女 「魔力をぶち込んでやる。その方が早く満足するだろっ」
675

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

「…」
「お願い」
「…」
「入…」
「はい」
「ああ」
「ああ」
「どうして」
「…」
「気が」
「いっ」
「主」
「…」
「来」
「ん」
「あ」
「あ」

「…」
「お願い」
「…」
「入…」
「はい」
「ああ」
「ああ」
「どうして」
「…」
「気が」
「いっ」
「主」
「…」
「来」
「ん」
「あ」
「あ」

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

「…」
「お願い」
「…」
「入…」
「はい」
「ああ」
「ああ」
「どうして」
「…」
「気が」
「いっ」
「主」
「…」
「来」
「ん」
「あ」
「あ」

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

[illegible]

ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル 魔 ル

ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ 女 ウ

712 じ、主人……様あつ……！ しゅ、しゅ……！ いいいい！ あああ
713 ……あ！ あ……ああ！ ……いいいいいいいい！ あああ！ あ
714 あ！ ああ！ あっくん！ いいいいいい……っ！ あ……ああ
715 あ……あああ……！ 全部、気持ちいいと……あ、たつてりゅ……！
716 んんん………！ ううううう……っああ……っう……
717 うー！」

魔女 「大丈夫か」

721 「ああ……あつあ……ご主人……さまあつ……！ いい！ いいいいいで
722 しゅ……うっ！ ああ……あああ……あ！ 私……幸せで、す……うん！
723 こんな、いい、……誰か、……可愛がつて、頂いたことなんて、な、
724 いい！ からあつ！ あつ！ ん、んんっ、……ありがと……
725 います、ありがと……います、ありがと……います……！ んあ
726 あ！ あああ……！ ああああ……！ んん！ うっ……うっ……あ
727 あ……あ……んん！」

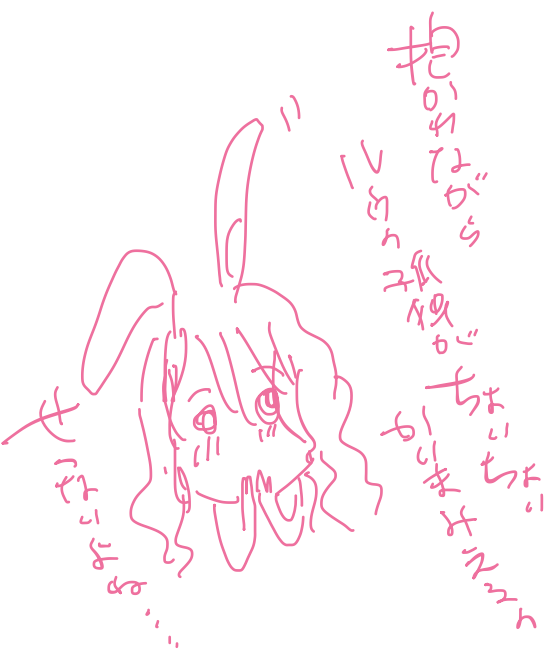
魔女 「……お前」

731 「んあああ、はあはあはあはあはあ、そっ、そっ……しゅき、
732 しゅきしゅき……きも、ち、いいいい……っ！ んあああ！ あ
733 ……っああ……！ ……んんん……うん！ もっ……もっ……くだし
734 や、いいいいんんっ！ ……っはあ、はあ、はあ、あああ……
735 ……っ……いいいい……っあ……あああ……！ んん……！ い……
736 いいいい……！ あああ……あ……っ……う……
737 ……う！ う……っあ……あああ……う……イ……ご主人、様
738 ……イキます……イク……イクイクイクイク……あああ……
739 ……ん……も……お……おっ！ うう……だ……めえ……！
740 （絶頂）んあああああんんん……っ！

//SE 潮吹

魔女 「んああああ……」

//SE 魔力効果音 f.o.



748 ルウ 「はあー……はあー……はあー……はあー……」
749 魔女 「はあー……はあー……はあー……はあー……」
750
751 ルウ 「……はあ、はあ、ご主人……様……」
752
753 魔女 「おい……大丈夫か」
754
755 ルウ 「……えへへ……あ、りがとう……ごさいま……す……
756 (力尽きて意識失う)……すう。スー……スー……スー……」
757
758 魔女 「……っ。……力尽きて眠ってしまったか。
759 ……こんな小さな身体に結構な量の魔力を送り込んでしまったからな…
760 ……。無理もない。ベッドまで運んでやろう、今夜はこのまま休め」
761
762 //AD 魔女、ルウを持ち上げる音
763 //SE 抱き上げ部屋に運ぶ
764
765 ルウ 「(//AD 寝息 30秒くらいでやう)」
766
767 魔女 「つー一週間前まじつ普通の生娘だったんだ。
768 花が好きで……料理が好きで……じつ普通の……」
769
770 ルウ 「(寝息) ……かあ……や、ま……スー……スー……スー……」
771
772 魔女 「……」
773
774 //SE ベンチに降り、布団をかけてやる
775
776 魔女 「欲しいものは手に入れる。当たり前のことなのに、なぜこんなに胸が
777 痛むのだ……。しかし、連れてくる前よりもずっと愛おしい……」
778
779 //SE 部屋を叩き、扉が閉まる音
780
781
782
783 終わる

トリック3

■魔女の家

//SE

朝の森の雰囲気

朝食準備中のルウ（ここに来てから一か月程度）

偵察鴉が窓際に降り立つ

ルウ

「おかえりなさい、鴉さん。お疲れ様でした。

屋根に皆さんの朝食、用意出来てますよ」

//SE 鴉ひと鳴きこつて飛び立つ

魔女

「すっかり手懷けたな」

ルウ

「そんな、餌で釣ったみたいな言い方……。

鴉さんたちと仲良しなだけです」

魔女

「そうは言ってもあいつらはこの領地の偵察部隊だ。

たとえ生まれたばかりの赤ん坊でも疑うように魔術回路が改造されている。そんな使い魔が易々と心を開いたりなんかしないのだから」

ルウ

「そんな風には見えませんが……。ところで……ご主人様」

魔女

「なんだ」

オズの魔法使の、
南の島の魔女はマフィダです、

ルウ

「あの……お部屋に毎日のように届くお洋服なのですが……」

魔女

「ああ、グリンダに頼んであるんだ。

お前に似合いそうなものを見繕って届けてくれと……」

ルウ

「はい、それはそれはかわいいドレスばかりで……。

でも、毎日運んでくださる運搬フクロウさんが日に日にやつれていって
るし、クローゼットもパンパンです。

私の身体はひとつしかありませんから、もう十分です」

819 魔女 「その割には毎日同じ服を着ているな」
820

821 ルウ 「おうち仕事で汚しては大変なので、動きやすい」しを……。
822 頂いたものは大事にしています」
823

824 魔女 「ふむ、それでは意味がないな。」

825 よし、もう少し動きやすい服をオーダーしておこう。

826 あと、これから毎日届いたドレスを着て、 私と一緒に夕食を摂る
827 こと。
828 いいね」
829

830 ルウ 「だ、……だから……そんなにたくさんのお洋服、困りますわうわ。
831 自分の寢床があるだけでも身に余る思いなのに……」

832 ハハハハ。これがここでの暮らしだ。いいかげん慣れろ」
833 魔女 *ハヤッパ〜と演じた。切らぬました(笑)*
834

835 ルウ 「ご主人様は私を甘やかしすぎです……私はただの眷属なのに」
836

837 魔女 「私のものを私がどう扱おうと私の勝手だろう。
838 気に入ったものを愛でて何が悪い」
839

840 ルウ 「……私は、ご主人様のお気に入りですか」
841

842 魔女 「ああ。不服か？」
843

844 ルウ 「……………」
845

846 魔女 「？ ……私なりに、お前を可愛がっているつもりだが……
847 なにか、気に障ったか？」
848

849 ルウ 「いいえ、いいえ……嬉しいのです、とっても。」

850 この世に母様以外に私を可愛がって下さる方がいるなんて……
851 それが、ご主人様なら、なおさら……」
852

853 魔女 「なんだ、驚かすな。……あと、泣くな」
854

855 ルウ 「……えへへ。……ふっ」
856
857 魔女 「……今日も少しづつだったな。
858 っの後、特に急ぎの予定もない。今日は部屋でゆっくり休んでいろ」
859
860 ルウ 「……でも」
861
862 魔女 「命令だ」
863
864 ルウ 「……はい、申し訳ありません」
865
866 魔女 「あやまるな。こればかりは時間が経って、魔力と、器である身体と、
867 お前の魂が馴染むのを待つしかない」
868
869 ルウ「……はっ」
870
871
872 (時間経過)
873
874 //ME シングルのなME入るc.
875 //SE 時計の針の進む音c.
876
877
878 ■ルウの部屋
879 午後、部屋で休んでいる様子を見に来る魔女。
880
881 //SE ドアノックの音
882
883 魔女 「(扉向いっ)入るぞ」
884
885 //SE ドア開ける音 魔女入室する靴音など
886
887 魔女 「早くお帰りだ……」
888
889 //SE 自慰の水音
890 //AD ルウ、自慰の音

4日本がムチャブリすぎると
あやかちゃんから大色直しされた一行。

891
892
ルウ 「はあ……はあ……はあ……ご、主人……様あ……」

894 魔女 「やはり……発情期がまだ終わってなかったか。今期は少し長いな……」
895
896 ルウ 「んうっ……こんな格好で……す、みません……なかなか治まらなくて
897 ……んふひ……っ」

魔女 「シーツまでびしょびしょじゃないか……。」
お前、こんなになるまで……。なぜすぐに私を呼ばない」

902 ルウ 「こんな、ことで……っはあ、はあ、……ご主人様の手を……煩わすこと
903 はできません……っ」

魔女 「馬鹿かお前は。とっとと魔力いれるぞ」

907
ルウ 「……っ！（歓喜）っはい！ありがとうございます……！」

909 //SE 魔力が発動する効果音
910 //SE 挿入される水音

912 魔女 「……C V—！」

914 ルウ 「(挿入)んんあうっ！(ゆっくり入ってくる)んんっあ……入っ、て
915 ……くるうう……ああ……う……うううっふ……う……っう……うっ！ん
916 んっ！あ、つい……ご主人様の……熱い……で、す……んんん！ああ……
917 あふ……うう……うっう……うっう……う……うっんん……っ」

「力……抜いてくれ、奥までいかなないと魔力の転送ができない……」

921 ルウ 「だ……って、…んああう、はあはあ、す…ご、い……はあう…ん、も
922 う、こんな……気持ち……いい、よお……んあつ、んああう、はあはあ…
923 ううん、ご主人、様あ……きもちいい……きもちいい……きもちいい……きも
924 ちいい……ですう……ん……っあ……あーぶ……う……ううーうう……うう！
925 ううっん……ん！（軽イキ）ぶううううんんんっ！」

927 魔女

「まだイクな。魔力の転送はこれからだ……ぞっ！」

928 929 930 //SE ュストン水音

931 ルウ

「ああうっ！ あん…ああ…ああ…っあ…あっ！うう！ うう…
…！ うう…っ！ ん……………あああ！あっ！ ふ……………うう！ …
…うん！ …っっん！ ふ……………うう！ …ううっ！ いい
…！ いい！ …っ！ ……いい！ ……いい！ きもちいい、
きもちいいおおお

932 933 934 935 936 937 938 939
（乳首責められる）……………んきやう！ じ、主人様……………おっぱい…そ、ん
な……………じこかれた、ら……………んっ！うっ！うっ！
あああ——あああ——あああ——」

940 魔女

「クリトリスは自分でしっけ……………ほら、剥いて、根元から……………じっ、だ」

941 942 ルウ

「ひゃああうんんっ！ じ、ね、らめえええ！」

943 944 魔女

「いいから、言っこと聞いてしっかりイケ。
ちよつとでも身体を満足させてやらんと、また体内で暴走する」

945 946 947 ルウ

「…っはあ！ …っかはっ！ んあああっ！ ああ…あっ！ あああ
あ…あっ！ ……！ んん…んうう…う！ あああ…っ！ ああ！
ああ！ ああ…あ！ うう、うう、う…う…う！ い…いい！ いっ…
いい！ …んんんあ！ ……………ああっ！ ああ！ ああ…っ！ あ…
…あ！」

948 949 950 951 952 953 魔女

「めっ、しっからしっけよ、くっせ」

954 955 956 //SE ュストン水音叫ぶなめ

957 958 959 960 961 962 ルウ

「ああ…あ…あっ！ す…い、ああ…っ…じ、主人様ああ…んん！
んんん！ うう…は、げ…………… ああ！ ああ！ ああ！ …お、く
…！ ぐぐぐ…う！ …う！ …う！ …う！ …う！ …う！ …う！
ううっ！ ……！ らじ、う…………… ん…ん…っあ…あ……………ううう
……っ！ ふうう…………… んん…ん！ ん…ん…あ…ああっ！ ん
あう！ じの…ま、そじ…う、そじ…いい！ ん！ ん！ …

チンチンソーニーはめれじく
おはなふとももひらたいて
あこまじ
りてはきおはらなな
用いて……

963 …っあ…ああ…あ…っは、んああ、イク……イクイク……ご…主人様の
964 魔力……で、いっぱい…イっちゃ、う……あっ、あっ、あああっ、
965 (絶頂)んあああああ!!」

966 魔女 「っんぐうー!」

967 //SE 潮吹き

968 ルウ 「んふー……んふー……んふー……んふー……んふー……んふー……
969 ……んふー……っああ……」

970 魔女 「……はあ、はあ、はあ……ど、うだ……気が済んだか……っ?」

971 ルウ 「い、主人様……あ………も、っと……もっとくだ、さい……」

972 魔女 「!」

973 「まだ欲しいです、まだ足りない……お腹……ジンジンして、アソコが
974 ずっと疼くのです……ご主人、様あ……」

975 魔女 「しかし……この前も大量に魔力を入れたばかりでこれ以上は供給過
976 多だ。お前の器では受け止めきれない、破裂してしまう」

977 ルウ 「そ、んな……今日はもう、おしまい……ですか?
978 (半泣き)っう………ひっう」

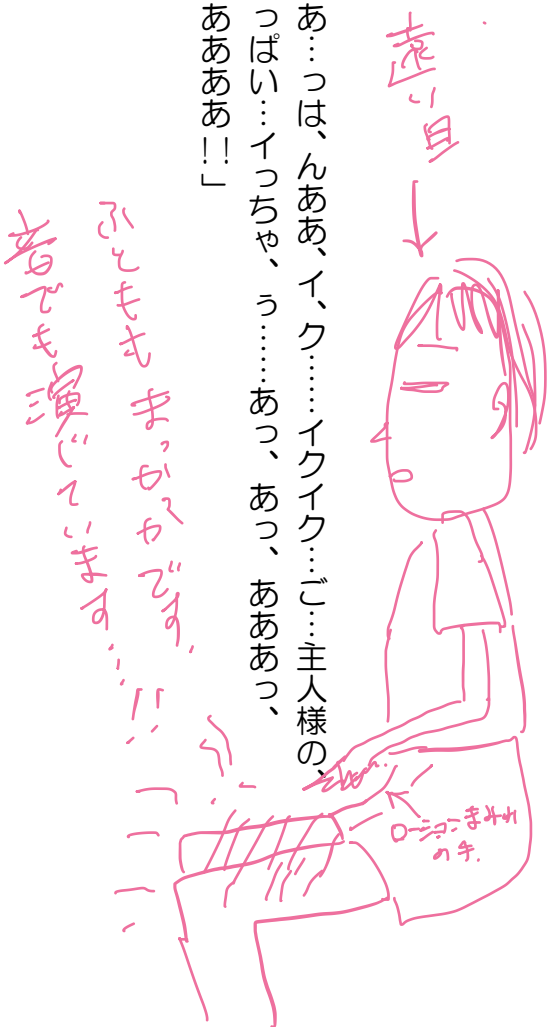
979 魔女 「……っ! しょうがない……これで、我慢してくれないか……」

980 //SE クリトリスを弄る水音

981 ルウ 「ふああっー!」

982 魔女 「私の手で……慰めてやる。魔力をぶち込むよりも刺激は劣るが……
983 お前の気が済むまで付き合ってやるから……」

984 ルウ 「ご主人様……そんなこと、ダメで……あっ……」



999
1000 魔女 「……っ、いいから。お前はここに集中してろ……っ」
1001

1002 //SE クリ弄りながら指入れていく 手マン水音
1003

1004 ルウ 「んあぁううっ……っ！ んんんっ……んんっ……んん！ ご、主人様あ
1005 ……っ……！ あ……！ あ……！ ご主人様の、指……が入ってるっ……
1006 うう……うう……ううっ！ そこ、きもち……いん……んっ！ んん………っ
1007 ん……んっ……私、なんかの……ため、に……ご主人様が……んふうううっ……
1008 うう……あ……あ……！ うううう……ううっ！ ん……あ、ご主人様あ……」
1009

1010 魔女 「はあ……はあ……お前の中……すじく、熱い……ああ、指に絡みつい
1011 てくるじゃないか……これは……苦しかったろう……」
1012

1013 ルウ 「んうっ……苦しいけど……ご主人様が、……っ、魔力で私の奥グチャ
1014 グチャにくたさること想像して……んんっ、そうしたら、ちよっとだ
1015 け楽になるんです……。 んんんっ……っ……あ……ん。
1016 ああ、すこ……い、んはあはあ、ご主人様の……んんっ、目の中に……
1017 とっても幸せそうな私があります……嬉しい……いいいい……！ ん
1018 んんっ……ん……っ……ふうっ……うっ！」
1019

1020 魔女 「……お前という子は。私も偵察鴉を笑えないな……
1021 (キス) ん……っちゅ……んちゅるる、じゅる、ちゅるる……んじゅるる、
1022 ちゅる……んう……ちゅる、ちゅっ……」
1023

1024 ルウ 「(キス息) んふうっ……んん、………っ、ん……んあ……はっ……ん
1025 ん………ご、主人……様……もっと……ルウのあそこ……グチュグチュして
1026 え………ご主人様の指で……もっと……もっと……いじめられたい……で、
1027 す……」
1028

1029 魔女 「くっ！ ば……か！」
1030

1031 //SE 手マン速度アップ
1032

1033 ルウ 「ああっ……んん！ ん……！ あ……ああ………っあ……あ！ うう……ん
1034 ……ん……っああ……あうう……うう！ ああ！ ああ！ あ……っ！ んんうう

↑
手でいた声音は
ホットテンガ+ほもを
二かくりまわして
つくりました。

1035 ……うふうう…うっ！ う…うう、んふうう…うふうう！ ん…ん
 1036 ……ん…ん…ん…！ ああ、ああ、あ…い…い…い…い…い…い…
 1037 ……いっ！ ご主人様の…ゆ、び…ご主人、様の…んあああっ！
 1038 きもち、いい…気持ちいですうふう…あああ…あああ…あああ…
 1039 ああ…あああ…ご主人様…ごめん、なさい…ごめんなさい…
 1040 ……こんなに気持ちいい…の、幸せ過ぎて…ごめんなさい…こ
 1041 んな、エッチなことばかりしたい、私のせいで…汚れた私のせいで
 1042 ……ご主人様に…こんな、こと…させてしまっ…っはあはあ、
 1043 でも、気持ちよくて…やめられなくて…頭がおかしくなって…私
 1044 ……ご主人様も汚してしまう…っん…あ…ああ…あ…あああ
 1045 あああっ！んんんあ…あああああ…あう…う…ん…ん！あああ
 1046 うう…あああ…あ…うふうふうふう…う…うふう…！ふう…
 1047 うふうん…ん…！も、う…イク…イク…！イク…！イク…！
 1048 ……ああっ…イク…イクイク…！イク…！イク…！
 1049 (絶頂)…っんんああうふう…！
 1050
 1051
 1052

//SE 潮吹き

魔女 「んんっ！……………っはあ、はあ、はあ、はあ……」

ルウ 「はあー、はあー、はあー、はあー……」

魔女 「……あ、……………ああ」

ルウ 「……ご主人…様？」

魔女 「違う、お前をこんな風にしたのは私だ……」

お前は美しい。でも、人間はすぐに枯れて死んでしまう。

折角手に入れたお前をすべになくしたくなかった。

お前は汚れたのではなく、汚されたんだ……私の……わがままに……」

ルウ 「……ご主人様、泣いていらっしやるの？」

魔女 「……え？」

ルウ 「私の……ため……」

←この作品の
制作中に愛猫が
逝ってしまい、本当に
こころに思っていました…
おめい

1071
1072 魔女 「涙？ この私が？」
1073

1074 ルウ 「ご主人様、私は……ご主人様をお慕いしています」
1075

1076 魔女 「……！」
1077

1078 ルウ 「この数か月、ご主人様と生活を共にしながらずっとこの想いを押し殺
1079 してきました。私は、人に恋をするなんて気持ちはありません。
1080 おかしくなった性欲を満たしてくれるご主人様への気持ちを愛と勘違
1081 いしているだけだって、自分に言い聞かせてました。
1082 でも、今、確信したんです。私、ご主人様を愛してます。
1083 ご主人様が私を汚されたとおっしゃるのなら、
1084 私は、汚れた今の自分が大好きです。
1085 島にいたときの自分よりもずっと……ずっと……！」
1086

1087 魔女 「……お前」
1088

1089 ルウ 「だから、ご主人様がご自分をそんな風におっしゃるのは間違っていま
1090 す。ご主人様は……私がお嫌いですか？」
1091

1092 魔女 「……そんなわけ、あるか。お前が生まれた瞬間からずっと見守ってい
1093 たんだ。私はお前のことが欲しくて……欲しくて……」
1094

1095 ルウ 「ご主人様、抱いてください。……………私を、抱いて……」
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105

編集者やこうもりはカットしました。
……はうすい。

トラック4

■ルウの部屋

魔女のドレスを丁寧に脱がすルウ
 恥じらう魔女、二人キスを繰り返す

二人でぬがしあうの好きなようにやめよ。
 私って何の00.は、こらえてるなあ……

ルウ 「(//AD 魔女の服を脱がす息)」

魔女 「(//AD キスをしながら服を脱がされる息)」

ルウ 「……はあはあ、ああ……ご主人様……綺麗……」

魔女 「！ 馬鹿……。か。お前に言われると嫌味に聴こえる」

ルウ 「ふえっ！ なんですか……！」

魔女 「私なんかよりも……お前の方がずっと美しいからだ……」

ルウ 「そんな風に言ってくださるの……ご主人様だけです……
 (//AD 魔女に抱きこへ息)」

魔女 「(抱きとめる)ふふ、私だけが知っていればいい……」

ルウ 「ご主人様ったら……。はあ……ご主人様、柔らかい……。

(キスをしながら下へ) ちゅっ……ちゅっ……ご主人の大きなおっぱい……ずっと、こっ……挟んで抱きしめて頂きたかったんです……。

スー……ハー……スー……ハー……。ああ……幸せ……ですう……。……ああ、ご主人様……おっぱい、吸わせて頂けますか？

(吸う) ……んちゅっ、ちゅるっ、んちゅるる、……。ん……ご主人様……美味しいで、すっ……夢、みたい……。ちゅるっ、ちゅっちゅっちゅっ……ちゅぱっちゅぱっちゅぱっ……んちゅるるる、じゅる、んちゅっ……」

魔女 「んんっ……っ、……。ふふ、いいと言っ前にもっ吸ってるじゃないか……。

ん……んん……っは……。ああ、そんな……。赤ん坊みたいに吸い付いて……。しょうがないな。抱っこしてやるから……。足を……。開いて。

二のあたりめいれと魔せんせりとりは
編集い大工事したいの

1141
1142
1143
1144
1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1169
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176

//SE クリッパ水音

ルウ
「(おっぱい吸いながらくり弄られる)んっっっ！ ……んちゅるる、ん
ふっっ、う…ん…ん！ ちゅっっ…っちゅっ、んちゅっ、ちゅるるる
う…っん………… 赤ちゃん、じゃ、ないもんっ…………はあ、あ…、ああ、
ああ…ちゅるる、ッロッロッロッロ…んんっ、はああっ、あああ…
…！ んんっ、ちゅっ、ちゅるるっ、んあああ…ああ！ ふう…うっ…っ
っっっっ！」

魔女
「うふふ…膨らんだ先っほ撫でてるだけで腰が動いてるぞ…。

よしよし、よしよし…お前は本当にいい子だよ…これまでの分、私
のところで死ぬほど幸せになね……。なってくれ……。
んっ…んん…、ふふ、そんなに強く吸っな…んっ…
ふふ、もうイキそうか？ 構わないから軽くクリでイッておけ……」

ルウ
「んちゅるるる、じゅるっ、んんんーっ！ んんんーっ！
ああ…っ！ っ！ ああ…あっ！ っ…！ いい…いい…いい…
っ…ああっああああ…ああんん…っ！ もっと…もっとナデナ
デして…くださ…いっ………… 私に、いい子いい子、して…んああっ、
ご、主人…さまあ…っ！ ああ…んん…う…ああ…あああ！
ナデナデされて…イっちゃ、う…イっちゃうっんっ、んっ、んああ
あっ、あ、あああ…………
(絶頂)っっっ！ ……………んっっっ……」

魔女
「んんんっ！ ふふ…お前のイク時の顔…たまらない……。
急に女の顔になる……」

ルウ
「は…ずかし、い…です……」

魔女
「ダメだ、もっと見せる……(指を入れる)」

//SE 指を入れる水音 手マン

ルウ
「(指入ってへる)んあっっ！ああっ！

1177 (ゆっくり出し入れ)ん…ん…っ！ あああ…ああ…あああ…！
 1178 ご主人、さ、まあああ！ これ…きも、ちいい…んんっ！ ああ…
 1179 あ…っ！ あああ…んん…う…ああ…ああ！ あ…あ、やあ…あ…
 1180 あ…っ」

1181 魔女 「中……もっ、ドロドロだ……」

1182
 1183
 1184 ルウ 「んふう！ ク、リー緒に擦ら…にやい、で……っ、さっき……イッた、
 1185 ば……かり、だか、りゃあああ…っ……」

1186
 1187 魔女 「キツイか？ じゃあ、もっとだな」

1188
 1189
 1190 //SE 手マン水音早へ

1191 ルウ 「ひやあああん！ んああっ！ そ、こ……っ！ だ、め、ですっ！
 1192 すぐ……イッちゃう……！！ んんああ！ …ああ、あ……あ……！
 1193 いい、いい、きも、ちいい……っ！ やあ…ああ…あああ、い…いい
 1194 やあ、すぐ、イッちゃうよおお…っ！ ああ！ ……ああ…ああ
 1195 ……！ いいい！ い……っ……！ あ……あ！ ああ！ ああ！
 1196 ああ……！ あ……！ あっん……！ んっああ…ああ…っんんっ
 1197 (絶頂) ……んあああっ！
 1198 (余韻) ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……」

1199
 1200 魔女 「んんっ！ ……はあ、はあ……ああ、か、わいい……かわいいぞ、ル
 1201 ウ……」

1202
 1203 ルウ 「……名、前……」

1204
 1205 魔女 「……ん？」

1206
 1207 ルウ 「ご主人様……私の、名前……呼んでくれた……お前じゃなくて……
 1208 ルウって……」

1209
 1210 魔女 「それがどうかしたか。ほら、腰の下に枕入れて……足広げろ……」

1211
 1212 ルウ 「(ちねるがまま) ……ひゃっ」

早くしてよ……

1249 っ……！ もっど、もっど……もっとお……！ んああっ！ い……いっ
 1250 いい……い……！ っああああ……！ ああ……！ あ……あああっ！
 1251 ん……ん……っ！」
 1252
 魔女 「んふう、ドロドロなのにぎゅんぎゅん締め付けてくるぞ。
 1254 勝つてにイクな……ちゃんと、私に報告してからにしろ……」
 1255
 ルウ 「は、い……すみませ……んああっ！」
 1256
 魔女 「（乳首吸っ）んちゅっ……んちゅるっ、ちゅるる……」
 1259
 ルウ 「んふう！ あ！ ンああ、あっ、今……おっぱい……なめない、で、
 1261 ああ………っ……！ ああああっ……っ……あああ……ああああああ
 1262 あ……あああん……！」
 1263
 魔女 「ああ……トロトロのスケベな顔……可愛い……可愛いぞ、ルウ」
 1264
 ルウ 「んああん！ ……っ、っ、主人様……もっ一回……」
 1267
 魔女 「うん？」
 1268
 ルウ 「私、の、名前を……呼んでください……」
 1270
 魔女 「……ルウ」
 1272
 ルウ 「んふう、あっ、あっんん……もっど……」
 1273
 魔女 「ルウ」
 1276
 ルウ 「はあ、はあ……もっど……もっどお……」
 1278
 魔女 「ルウ……」
 1280
 ルウ 「んあ、ああうん！ っはあ、はあ、し、あわせ……ですっ、っ主人
 1282 様あ……ああん、あっ、あっ………！」
 1283
 1284

1286

1281

1292

4671

1301

1302

1306

1309

1316

1318

1319



1321
魔女 「……はあ、はあ、はあ、はあ」

1322
1323

1324 ルウ 「あ、ああ……イって、る……おっぱいも……くしも……奥も……ぜんぶ……ひろって……んって……」

1325
1326

1327 魔女 「(//AD 余韻キス)ん……ん……ちゅっ……んちゅるっ、ん……ちゅ……」

1328
1329

1330 ルウ 「(//AD 余韻キス)んう……あむ、んちゅ……ちゅ……んっ……ふ……んっ……ん。」「主人様……好き……好き……」

1331
1332

1333 魔女 「……っ、う、ちゅ」

1334
1335

1336 ルウ 「ひひひ……照れてらっちゃんですか、かわいい……」

1337
1338

1339 魔女 「な、なんだ、と……」

1340
1341

1342 ルウ 「私も……」主人様を気持ちよくさせてあげたい……です……」

1343
1344

1345 魔女 「……っ、ま、待て、私はそっぴいのは……うっ……」

1346
1347

1348 ルウ 「え、でも……私だけこんな気持ちよくなって頂くのは気がひけますー……」

1349
1350

1351 魔女 「へっっ、どこでもうっうっただけ頑固なんだな、お前は」

1352
1353

1354 ルウ 「」主人様にも……こんな風に一緒に気持ちよくなってほしいのです……」

1355
1356

魔女 「…………。じゃあ、いかなら……ぶっだ
(//SE ぐんぐんかなる 衣擦むっくシユのめっね知っ。)」

1357
1358 ルウ 「……あ。『主人様のおそろも……濡れて、る……』
1359

1360 魔女 「じじじっ……お互いのクリを……キス、させ……る」
1361

1362 //SE 貝合わせ 水音 ゆっゝゝ
1363

1364 ルウ 「んあああっー」
1365

1366 魔女 「……はあ……はあ……お前のクリ……膨らんで……擦り、やす……い、
1367 ぞ……」
1368

1369 ルウ 「んあ……、あ、あっ……ふあ、あ……ああ……あっ……『主人様の……
1370 愛液と……私のが……混ぜて……んっ、クリが……ぐちゃぐちゃ……あ
1371 あ……すっ、い……糸ひいて……ディープキス……してる……』
1372

1373 魔女 「……足……上げて。本当のディープキスは……じっ、するんだ……
1374 (じっから貝合わせする)んっ……」
1375

1376 ルウ 「んああう！ んあっ、うあっ、はっ、んあああ、『主人様の心臓の音
1377 ……すっ、早くなって、る……』
1378

1379 魔女 「ふふ、兎は耳がいいな。
1380 聴こえるか……私もちやんと、気持ちがいいぞ……」
1381

1382 ルウ 「っ……！ 私のアン」……きもち、いいですか。」
1383

1384 魔女 「ああ、気持ちがいい。もっと……もっと気持ちよくなって、動くぞ」
1385

1386 //SE 貝合わせ スプードアップ
1387

1388 ルウ 「ひじっ！ んん……っ！ ああ……あっ……ああ……ああ……あう……っ！
1389 ん……ああ……あう……うっあああ……！ ううう……うっふうひうう
1390 ひひひっ！ ふ……う……う……うんっ！ ん……ん……っい……いっ
1391 ……っ……っ！ うっ……っ」
1392



目撃者から聞いた話
はなからいへば、その事柄は……
……

1393
1394 魔女 「ん……あ……あ……ああああ……ん……ん……ああああ……ん……
1395 う……っあ……あ……あ……う……う……う……う……う……う……う……う……
1396 う……う……う……ん……ん……ん……ん……ん……ん……ん……ん……ん……
1397 う……う……」

1398
1399 ルウ 「ああ……主人……じゃ、ま……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1400 あっ、これ、す……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1401 も溶けちゃうとお……あ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1402 い……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1403 う……っ……す……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1404 く……な……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1405 ……」

1406 魔女 「ん……う……おま……え……す……っ……っ……っ……っ……っ……
1407 ほ……ら……腕……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1408 ……」

1409 ルウ 「あああ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1410 気持ちよすぎ、る……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1411 ご主人様と……私の、アソ……っ……っ……っ……っ……っ……
1412 ます……っ……ん……ん……ん……ん……ん……ん……ん……
1413 ……！ ああ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……っ……
1414 う……う……！」

1415
1416 魔女 「……ルウ……好き、だ……ルウ……いい……いい……ルウ……」

1417
1418 ルウ 「ご主人、様あああ、私、も……好きです……っ……ご主人様、しゅきいい、
1419 しゅきいい……っ……」

1420
1421 魔女 「ん……っ……っ……ん……ん……ん……ん……ん……ん……
1422 ク……っ……」

1423
1424 ルウ 「私……も、……も……っ……っ……！ ご主人様と、一緒に……一緒にイキマ
1425 す……っ……ん……ん……ん……ん……ん……ん……ん……
1426 (絶頂) ……あああ……あああ……あああ……あああ……あああ……
1427 ……」

1428 魔女 「ん……っ……っ……っ……ん……ん……(絶頂)ああああ……っ……っ……っ……っ……」

1465

魔女

「(キス受け)んんっ……っ！ んはっ、ちゅっ……んちゅっ……ちゅ」

1467

ルウ

「……では、今！ もう一回しましょっ、ご主人様♡……」

1468

魔女

「んっっ、お前が望むなら……」

1470

//SE 再び始まる行為

//AD 二人の絡み合う息

1472

なみ(なみ)……f.o.

1474

何度でも……
いっしーに……
終わる

1475

1476

1477

1478

1479

1480

1481

以上です、お疲れ様でした！

お楽しみ頂けましたか？！

私にとても制作の色々なことがあった。

思い出深い作品になりました。

レビューなどで感想をぜひ教えてください。

また次回作でお会いしましょう。

私もがんばります！

ありがとうございます！

2021年12月6日

真鳥のこ

お疲れ様！

